

質 問 回 答 書

2021 年 2 月 3 日

「インドネシア国東南アジアガジャマダ大学フィールドリサーチセンターにおけるオープンイノベーション促進を通じた産官学地連携拡充プロジェクト」
(公示日:2021 年1月 20 日/公示番号:20a01002)について、質問と回答は以下の通りです。

通番号	当該頁項目	質問	回答
1	<p>P5 上段</p> <p>3)以下の費目については、定額計上してください。</p> <p>a)本邦招へいにかかる経費 <u>14,910 千円</u></p>	<p>・14,910 千円は、<u>2 回分の本邦招へい費用</u>との理解でよいでしょうか。</p> <p>・本件の本邦招へいで受注者が担当する業務は、「コンサルタント等契約における研修・招へい実施ガイドライン(2017 年 6 月)」の P2 に示されている「<u>実施業務</u>」のみとの理解でよいでしょうか。</p> <p>・受注者が担当する業務が「<u>実施業務</u>」のみの場合、14,910 千円は、同ガイドライン P8-9 に示されている通り、諸謝金、実施諸費、同行者等旅費、再委託費、諸雑費に充てられ、<u>被招へい者の受入に係る経費(航空券、国内移動旅費、宿泊費、滞在費等)や研修監理員/同行案内人に係る経費は含まれない</u>との理解でよいでしょうか。</p>	<p>・ 14,910 千円は、2 回分の本邦招へいの受入業務分が含まれておりました。本契約に受入業務は含まれないため、本邦招へいに係る経費は 4,000 千円に訂正します。</p> <p>・ 受注者の業務範囲ですが、「コンサルタント等契約における研修・招へい実施ガイドライン(2017 年 6 月)」に記載されている「<u>実施業務</u>」となります。</p>
2	<p>P5 8 プロポーザル評価と契約交渉権者決定の方法</p> <p>(1)評価対象業務従事者について</p>	<p>P25 第 4 業務実施上の条件の2.業務量の 目途と業務従事者の構成(案)にあるように、 業務全体で約 29MM と理解します。評価対</p>	<p>・ 評価対象とする業務従事者の人月数の目安は約 20MM に訂正します。</p>

	2) 評価対象とする業務従事者の予定人月数 約 29MM	象とする業務従事者の予定人月数の目安をご教示ください。	
3	P18(5)PoC の実施に係る機材の供与について 「…業務開始後半年程度でプロジェクト実施上必要な機材の特定、妥当な導入時期、主な機能について検討し、 <u>2021年5月に開催を予定している第1回 JCC において日本・インドネシア双方の関係者で是非について検討し、合意された場合は導入することとする。</u> 」	業務開始後半年程度の検討期間を要するとすれば、第1回 JCC での合意は困難と思料します。第2回以降の JCC (例えば 2021 年末) での合意を想定してよろしいでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> 現地での PoC や招へいのスケジュールを考慮し、第1回 JCC にて一部機材の合意を想定しておりました。第1回 JCC にて合意することが拙速である場合は、第2回 JCC を早いタイミングで開催して合意するなど、運用上の工夫の提案を求めます。
4	P19(10)要員計画の留意点の冒頭、「 <u>7. (11)</u> 」について	「7. (11)」は項目として無いようです。「 <u>6. (12)</u> 」との理解でよいでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> ご指摘のとおり間違いです。7. (11)ではなく、6. (12)となります。6. (12)をご留意ください。
5	P19 (10)要員計画の留意点 「…各種概念実証の実施に際し、課題解決を支援するための <u>短期的な専門家派遣を要員計画において想定する</u> 。概算目安としては、同項目に提示している 3 課題に対して、合計上限 6MM 程度(全体 MM 目途 29MM の内枠)を目安とした提案を受け付ける。」	<ul style="list-style-type: none"> 「短期的な専門家」とは、P11 の 3)業務従事者の構成(案)で示されている③④⑤の専門家のほかに、別途、短期専門家を配置してよいと考えてよろしいでしょうか。 そうである場合、全体 29MM のうち、目安として 6MM を別途配置する短期専門家に充てることができ、P11 の 3)業務従事者の構成(案)で示されている①②③④⑤の専門家の稼働は、目途として 23MM であるとの理解で正しいでしょうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 業務内容を考慮の上、適切だと考える業務従事者の構成及び格付をご提案ください。 短期専門家③,④の活動目安として 6MM を想定しており、①から⑤の業務従事者全員の稼働の目安として 29MM とご提示しております。 なお、提示した人月数は、あくまで目安となりますので、より適切な MM をご提案ください。
6	P21<成果 1 に係る活動> (9)デジタル・ファブリケーションに関する	トレーニングを実施するにあたり、日本人専門家による指導の他、海外や日本のオンラ	計上可能です。現地でのトレーニングのために使用するオンラインコースであれば、海外のもので

	るトレーニングをFRCのスタッフに実施する	インコース受講なども考えられます。(某国のICT分野技プロで、そのような研修を実施されたと聞いています。)その場合、受講料費用を一般業務費で計上することを認めていただけるでしょうか。または、国内業務費の国内諸雑費として計上可能でしょうか。	も日本のものでも一般業務費への計上をお願いします。
7	P22<成果2に係る活動> (12)FRCにて実証実験や概念検証ができる仕組みの設計を支援する	プロジェクト期間内に機材調達を実施すると理解ですが、 <u>機材費を本見積に含める必要はありますでしょうか。</u> その場合は、「3,000万円」の定額計上で良いでしょうか。	・ 訂正させていただき、「3,000万円」の定額計上にてご提示ください。
8	P5 上段 3)以下の費目については、定額計上してください。 a)本邦招へいにかかる経費 <u>14,910千円</u>	—	・ 質問1と質問7を合わせ、P4.「7 プロポーザル等の提出」「(6)見積書」の項目につき、以下のとおりに訂正いたします。 【修正前】 3)以下の費目については、定額計上してください。 a)本邦招へいにかかる経費 14,910千円 【修正後】 3)以下の費目については、定額計上してください。 a)本邦招へいにかかる経費 4,000千円 b)機材調達にかかる経費 30,000千円
9	P26 5. 資機材の調達 「本業務遂行上、必要な資機材があればプロポーザルにて提案すること。当該資機材購入費(輸送費を含む)は別	ここで示されている資機材の調達は、上記の P22(12)が示す機材調達とは違い、別途、受注者がプロポーザル時点で活動に必要であると想定する資機材のことを指すとの	・ ご理解の通りです。

	見積として計上すること」	理解で良いでしょうか。	
10	その他	P11、12、25、26 では、文章の一部に下線が引かれていますが、理由はございますか。特に留意する事項、との理解でよいでしょうか。	・ 下線は、資料修正時に引かれたもので、特に留意は不要です。
11	その他	FRC は、既に完成しているのでしょうか。未完成の場合、完成までのスケジュールはどのようでしょうか。	・ コロナの影響でスケジュールに遅延が発生しており、建物の土木工事は4月完工予定となっており、機材導入は11月完了を予定しております。
12	その他	RDと共にPOの配布はありますでしょうか。	・ 配布資料の中に含まれております。
13	P11 中段 【業務従事者：担当分野：ファブラボ運営・施設管理】 a) 類似業務経験の分野：ファブラボ運営及び運用にかかる各種業務	ファブラボ運営及び運用にかかる各種業務に、ファブラボの類似施設の施設管理は含まれるでしょうか？ 例えば、産学連携センターあるいは中小企業連携センターのようなファシリティも該当しますでしょうか？	・ 産業連携センターや中小企業連携センターのようなものとファブラボは扱う機材が異なり、運営ノウハウも異なるため該当しません。
14	P16 第3 特記仕様書案 2. プロジェクトの概要 (5) 活動の概要 【成果1に係る活動】 1.1 地域課題に取り組もうとしている FRCファブラボの潜在的な利用者を特定する	日本等では大学・高専の構内に設置されたファブラボは、学生・教員が主たるユーザーになることが多いと思いますが、本プロジェクトでは、一般市民(近隣企業等含む)が利用できる施設として設置しているという理解でよろしいでしょうか？	・ 大学内の施設ではありますが、産官学地連携の拠点となるため、一般市民や近隣企業の方による利用が想定されます。

15	P18 5. (6)本邦招へいについて	<p>「本件受注者は、C/P スタッフが既に持っているスキルや知見や関心を十分に踏まえた上で、招へい実施の詳細について検討する必要があります」とありますが、招へいにおける JICA と調査団とのデマケはどのようになりますか？ JICA が主催する招へい事業を調査団が支援する形と理解してよいでしょうか？</p> <p>また、その場合、招へいに関する費用(被招へい者の渡航費等)は、本件見積もりに含める必要はないと理解して良いでしょうか？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「コンサルタント等契約における研修・招へい実施ガイドライン(2017年6月)」の p2 に示されている「受入業務」「監理業務」を JICA が担当し、「実施業務」をご担当いただきます。 ・ 「受入業務」「監理業務」に係る費用は見積もり不要です。
16	P19 5. (10)要員計画の留意点	<p>「短期的な専門家派遣を要員計画において想定する」(合計上限 6MM 程度)とありますが、自社と雇用関係のない業務従事者を想定した場合、その取扱いは「補強」となるのでしょうか？</p>	<p>ご理解の通りです。詳しくは入札説明書 p11 の「2 プロポーザル作成上の条件」「(1) 自社と雇用関係のない業務従事者の配置」をご覧ください。</p>
17	P20 第3 特記仕様書案 6. 業務の内容 (5)本邦招へいの企画立案と実施	<p>本邦招へいテーマの 1 つに、特記仕様書では「オープンイノベーションに係る招へい」が記載されていますが、PDM 及び PO では「Innovative Products and Services Development (Design Thinking, Lean Management, Agile Development)」となっており、内容が異なります。C/P 機関との合意内容をより詳細にご教示いただくことは可能でしょうか？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ C/P との合意内容は PDM/PO に記載されている通りです。 ・ 「Innovative Products and Services Development (Design Thinking, Lean Management, Agile Development)」は、オープンイノベーションのコンポーネントの一部と考えております。今回の招へいはファブラボの利用を前提としたものですので、プロジェクト開始後その前提を踏まえて C/P、JICA と内容を合意いただきます。

18	<p>P20 第3 特記仕様書案 6. 業務の内容 (12)FRC にて実証実験や概念検証ができる仕組みの設計を支援する</p>	<p>実証実験や概念実証実施の際に、実際にファブラボ及びフィールドで手を動かすのは、各分野(スマート農業、木質ペレット、山羊乳)の関係者という理解でよろしいでしょうか？ あるいは、学生さんの参加も想定していますでしょうか？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ C/P からは明確にデジタル農業、木材燃料、乳製品品質改善を行いたい、との要望をいただいております、原則その3領域でPoCを行う予定です。しかし、現地のニーズや利用者の特定が当プロジェクトの成功に大きく影響を与えることから、プロジェクト開始直後に簡易なベースライン調査を実施し、ファボラボの利活用が期待できる地域産業の特定し、その領域にてPoCを実施します。 ・ フィールドで手を動かすのは各分野の関係者、という理解で間違いありません。 ・ なお、関係者だけではなく、学生による参加も想定されます。
19	<p>P22 6. (12)FRC にて実証実験や概念検証ができる仕組みの設計を支援する</p>	<p>「3 分野での概念実証を想定しており、各分野で必要な機材を、各分野 1 千万円を超えない範囲、かつ合計 3000 万円以内で調達することが求められる」とありますが、購入費用の多寡は入札の評価に影響するのでしょうか？ 本入札においては、「評価点が僅少である場合、見積書を開封し、価格評価を加味」することになっており、価格評価の観点から質問しております。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 先方との協議を経て機材を確定させるため、見積もりでは定額計上してください。通番号8も合わせてご確認ください。
20	<p>P22 6. (12)FRC にて実証実験や概念検証ができる仕組みの設計を支援する</p>	<p>また、概念実証やプロトタイプングを3分野で想定しているとのことですが、PoC実施に費用(材料や消耗品など)が発生す</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ファボラボの材料費については、C/P 側でその費用を持つことが合意されております。

		<p>る場合、どの機関が負担することを想定されていますでしょうか？</p> <p>また、もしその費用を本プロジェクトが負担する想定の場合、本プロポーザルの別見積りに含める必要があるのでしょうか？</p>	
21	PDM Inputs, The Japanese Side (3). Local cost	<p>日本側のインプットに係る記載の中に「Local cost supplementation for the project related Open Innovation events」とありますが、本プロジェクトにおいて、現地でのオープンイノベーション関連のイベントの実施を想定している、あるいはC/P機関と合意していますでしょうか？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ PoC の実施を「イベント」、と記載していません。そのため、ご質問が意図するような催し物のようなものは現時点では想定しておりませんし、そのような合意もございません。 ・ PoC の実施方法については C/P との協議を通じて検討ください。
22	その他	<p>ダイバーシティ枠を活用するにあたって、ダイバーシティ枠のうち一人が補強メンバーでも問題ないでしょうか。</p>	<p>補強でも問題ありません。</p>
23	P11 業務従事者の構成(案)	<p>「業務内容等を考慮して、最適だと考える業務従事者構成を提案」とありますが、評価対象者である【ファブラボ運営・施設管理】を(運営)と(施設(機材)管理)とに分けて担当者を配置することを検討しておりますが、評価対象者の業務を分担して提案することは可能でしょうか？</p>	<p>可能です。</p>

以上